としょだより

NO、1

2021. 5月

南小学校図書館

梅雨の始まりが早く、雨の多い日が続きますね。　こんな時こそ、図書室のルールをしっかり守って、本を楽しんでください(^^)/。

第67回　青少年読書感想文全国コンクール

課題図書　の紹介です！！

☆ 今週から、各学年の4冊が各クラスに1週間程1冊ずつまわります。

☆ 借りられるのは、夏休み前になります。

低学年(1・2年生)の部

「あなふさぎのジグモンタ」

とみながまい作　ひさかたチャイルド

なおしながら、ふるいものをつかいつづけるということ‥そのいみをジグモンタがおしえてくれます。ジグモンタは、じつざいのクモ「ジグモ」がモデルになっています。

「みずをくむプリンセス」

スーザン・ヴァーデ文　さ・え・ら書房

せかいでは 10 おくにんぐらいのひとが、すいどうがなくちかくにみずのないくらしをしています。そんなくにのあるおんなのこの一日のおはなし。

「そのときがくるくる」

すず　きみえ作　文研出版

ぼくは、なすがきらいでたべられない。おじいちゃんは、たくさんのやさいをそだててる。もちろんなすも！　おじいちゃんは「そのときがきたらたべられるようになる」といってくれるけど…

「どこからきたの？おべんとう」

鈴木まもる作・絵　金の星社

いつもたべているものが、どこからきて、どうやってたべられるようになったか、どのようにつくられているのか‥

しってみませんか！！

中学年(3・4年生)の部

「わたしたちのカメムシずかん」

鈴木海花文　福音館書店

岩手県、葛巻町の小学校の校長先生の提案でおこった、きらわれものの「カメムシ」をめぐる、すばらしいできごとが本になりました。

「ぼくのあいぼうはカモノハシ」

ミヒャエル・エングラー作　徳間書店

ある雨の日、ルフスは動物園からにげだした人間のことばをしゃべるカモノハシとであう。オーストラリアをめざしてルフスとシドニー(カモノハシ)の珍道中が始まる。

「ゆりの木荘の子どもたち」

富安陽子作　講談社

今は老人ホームとなってしまった 100年以上も前に建てられた「ゆりの木荘」。ふしぎな言い伝えがある館で、四人のおばあさんと二人のおじいさんが、時をこえて体験したこととは…

「カラスのいいぶん」

嶋田泰子著　童心社

カラスにどんなイメージをもっていますか？　身近な鳥カラスをもっと知ってみませんか？！カラスの習性を知り、動物と人間が共に生きるということを考えさせられる一冊。

高学年(5・6年生)の部

「エカシの森と子馬のポンコ」

加藤多一著　ポプラ社

ドサンコ馬のポンコは、牧場を逃げだし森でくらしはじめる。森の中で出会う長老(エカシ)の木や虫や自然界のものたちとかかわりあいながら成長してゆく物語。

「おいで、アラスカ！」

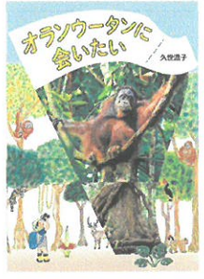
アンナ・ウォルツ作　フレーベル館

スフェンとパーケルはそれぞれ大きな問題を抱えていた。険悪な二人は介助犬アラスカを通してじょじょにお互いを理解し、友情を深めていく。

「サンドイッチクラブ」

長江優子著　岩波書店

目標が定まらないまま塾通いをしている珠子の前に、成績優秀で超個性的なヒカルがあらわれる。正反対の二人が、いっしょに砂像作りに没頭していく。その先にあるものは…



「オランウータンに会いたい」

久世良子著　あかね書房

「近絶滅種」でまだまだ未知の生物オランウータン。ボルネオ島で悪戦苦闘するフィールドワーク(野外調査)のようすを通して知るオランウータンの生態と環境問題。